

2023年11月16日

東北経済産業局

「TOHOKU DX 大賞 2023」の受賞者を決定しました

東北経済産業局は、「TOHOKU DX 大賞 2023」に応募された案件の中から、最優秀賞(3件)、優秀賞(6件)及び選考委員会特別賞(3件)を決定しました。

1. 「TOHOKU DX 大賞 2023」について

東北経済産業局では、デジタル技術を駆使してDXに挑戦する企業や、DXに資する人材育成等の支援を積極的に展開する企業又は団体の取組のうち、特に優れたものを表彰し、広く発信することにより、東北地域におけるDXを推進することを目的に、「TOHOKU DX 大賞」を2021年度より実施しています。

このたび、応募いただいた31件の中から、次の3部門において、各々最優秀賞1件(計3件)、優秀賞2件(計6件)及び全体から選考委員会特別賞3件を決定しました。

【部門】

- ◆ 製品・サービス部門
- ◆ 業務プロセス部門
- ◆ 支援部門

【表彰種別】

- ◆ 最優秀賞(東北経済産業局長賞)
- ◆ 優秀賞(一般社団法人東北経済連合会 会長賞、東北地域情報サービス産業懇談会(TISA)会長賞)
- ◆ 選考委員会特別賞

2. 受賞者について

別添 受賞一覧のとおり

3. 表彰式について

TOHOKU DX 大賞 2023 表彰式

- ・日時:2023年12月5日(火曜日)14時00分~16時00分
- ・場所:仙台国際センター 大会議室「萩」(仙台市青葉区青葉山無番地)

➤ 「TOHOKU DX 大賞 2023」表彰式を開催します

https://www.tohoku.meti.go.jp/s_joho/topics/231116.html

(参考)

- TOHOKU DX 大賞 2023 の募集を開始します！;東北地域で DX に挑戦する企業等を表彰

https://www.tohoku.meti.go.jp/s_joho/topics/230731.html

(本発表資料のお問合せ先)

東北経済産業局 製造産業・情報政策課

参事官(デジタル政策担当) 千葉

担当: 今田、岡田

電話: 022-221-4895

受賞一覧<製品・サービス部門>

別添



TOHOKU DX大賞2023

【最優秀賞】（東北経産局長賞）

<受賞者>

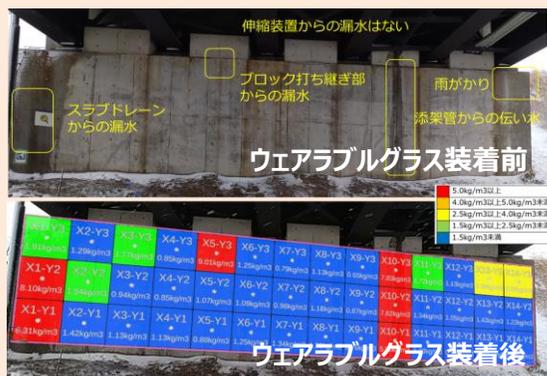
株式会社XMAT（代表）、東北大学、日本大学、株式会社エビデント、株式会社復建技術コンサルタント
所在地：宮城県仙台市ほか

<受賞件名>

非破壊検査と拡張現実技術を融合したインフラ点検システム

<概要>

ハンディ型蛍光X線分析装置及びウェアラブルグラスによる拡張現実技術の融合による非破壊検査を実現することでコンクリートの塩害調査の測定時間を90%以上短縮。慢性的な人手不足が課題となるインフラ維持管理における作業効率を飛躍的に向上させ、工期短縮及びコスト削減に寄与。



【優秀賞】（東経連会長賞）

<受賞者>

プロフェクト株式会社
所在地：岩手県花巻市

<受賞件名>

中小製造業が中小製造業のために開発した生産管理システムで今こそ生産性革命を！

<概要>

全国の中小製造業8社が生産管理についての課題を持ち寄り、中小企業の製造現場に必要な機能を備えた生産管理システム「TED (Total Engineering Design)」を開発。生産現場に必要なQ（品質）、C（コスト）、D（納期）のノウハウを網羅するシステムを安価に導入でき、中小企業の生産性向上に寄与。



【優秀賞】（TiSA会長賞）

<受賞者>

株式会社東北エンタープライズ
所在地：福島県いわき市

<受賞件名>

四足歩行ロボットを活用した点検業務のDX支援

<概要>

福島第一原子力発電所の廃炉作業や災害対応製品として販売していた四足歩行ロボットSpot®を製造業向けに展開。プラント内を点検巡回させ、設備の稼働データを収集し、AIで整理・分析する事業モデルにより製造業の生産性向上、人手不足に寄与。併せて、導入・運用の支援としてリモートで動作確認等が可能な施設を整備し、全国からの需要に対応。



受賞一覧 <業務プロセス部門>



TOHOKU DX大賞2023

【最優秀賞】（東北経産局長賞）

<受賞者>

株式会社後藤組

所在地：山形県米沢市

<受賞件名>

建設業における「全員DX」への挑戦：ノーコード活用とデータ・ドリブン経営

<概要>

建設業の抱える人手不足を解消するため、「**全員DX**」をテーマとして、**社員全員がノーコードツールを使い現場作業の効率化を図ることで1.77倍の生産性向上を実現。協力会社への教育支援など自社に留まらない活動も実施し、地域の生産性向上にも寄与。**



【優秀賞】（東経連会長賞）

<受賞者>

秋田エプソン株式会社

所在地：秋田県湯沢市

<受賞件名>

データマネージャー育成による問題解決活動の定着化事業

<概要>

大学と連携しデータ活用による品質管理等を実践できる人財育成プログラムを設立。スキルアップにより課題本質に対する理解度向上、改善の取組速度向上を実現。**これまでに18名のデータマネージャーの育成、地域の複数社で同プログラムを実施**するなど人材育成や地域への波及にも貢献。



【優秀賞】（TiSA会長賞）

<受賞者>

株式会社ネクスト（代表）、株式会社

大門米商、株式会社東北銀行

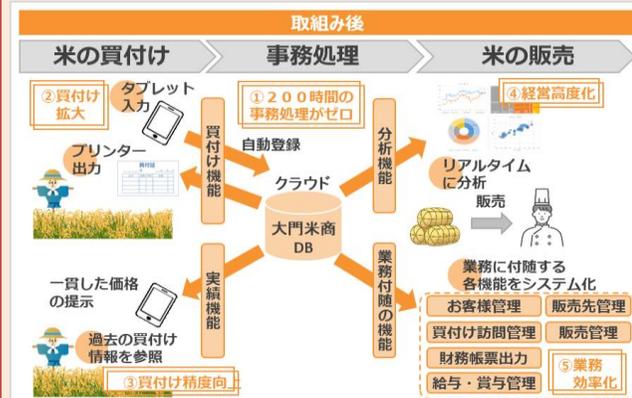
所在地：岩手県盛岡市

<受賞件名>

地場企業、IT企業、地銀が一体となり推進する地場企業のDXプロジェクト

<概要>

地場企業、IT企業、地方銀行が一体となり、地場企業の課題であった紙ベースの業務をタブレットやPCから入力・活用できるクラウドシステムを構築。業務データを一元管理できたことで、**事務処理の負荷軽減、データ活用による業務分析**によって**経営の高度化に成功。**



受賞一覧〈支援部門〉



TOHOKU DX大賞2023

【最優秀賞】（東北経産局長賞）

〈受賞者〉

株式会社ASAHI Accounting
Robot研究所

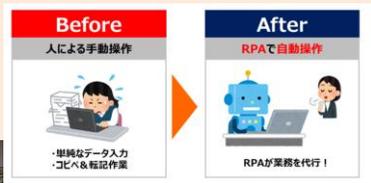
所在地：山形県山形市

〈受賞件名〉

山形から全国へ。RPAから始めるDX
推進で中小企業を元気にする！

〈概要〉

RPAを活用した自社の業務自動化ノウハウを活かし、全国中小企業のDX推進のお悩みを、**RPAを“きっかけ”としてDXの一步を踏み出す伴走支援**により多数解決。全国124社に対して勉強会開催、156社の開発支援を実施。さらに定期的な現地・オンラインセミナー開催により、**参加企業のDX人材育成にも貢献**。



【優秀賞】（東経連会長賞）

〈受賞者〉

株式会社長島製作所

所在地：岩手県一関市

〈受賞件名〉

岩手初！ものづくり企業が取り組むデジタル人材の育成スキーム構築

〈概要〉

デジタル人材の不足に対して、**社会人対象の実践的なプログラミングカリキュラム「スパルタキャンプ」を自治体や県内IT企業と連携して開催**。また、**幼少期から高校生を対象とする異業種連携によるプログラミング教室「PLOT」を開講し、ものづくり企業が主体となって、岩手初の循環型デジタル人材育成スキームを構築**。



【優秀賞】（TiSA会長賞）

〈受賞者〉

株式会社メコム

所在地：山形県山形市

〈受賞件名〉

山形の活性化を図るべく、抱えている多くの社会的問題をDXで解決

〈概要〉

少子高齢化、若年層の県外流出等の社会課題をDXで解決するため、**東北芸術工科大学と連携し、“MECOM DX Center”を開設**。**デジタルネイティブ世代のアイデアを取り入れたDXを体験する空間の提供、専門スタッフの伴走**により、企業経営の課題解決に資するDXロードマップの作成を支援。



DXcenter
MECOM

受賞一覧 <選考委員会特別賞>



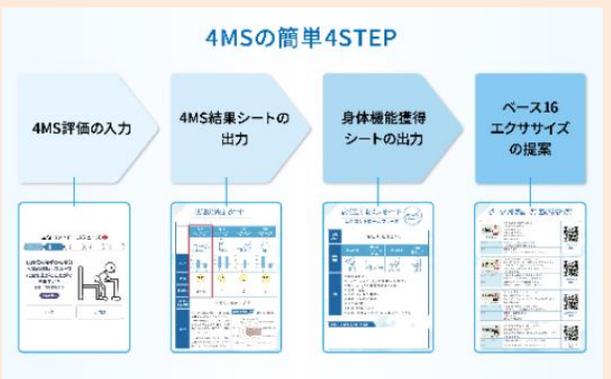
TOHOKU DX大賞2023

製品・サービス部門

<受賞者>
株式会社ケアスマイル青森
所在地：青森県青森市

<受賞件名>
革新的なチェックシート及び機能訓練メニューの自動化ソフトの開発

<概要>
要介護者の運動機能を評価し、最適な機能訓練計画と身体機能の改善のためのエクササイズメニューを提案するシステム「4MS」を開発。要介護者の日常生活の動作改善に貢献するほか、事業所内の生産性向上、職員25名がリハビリトレーナーに昇格する等人材育成にも寄与。

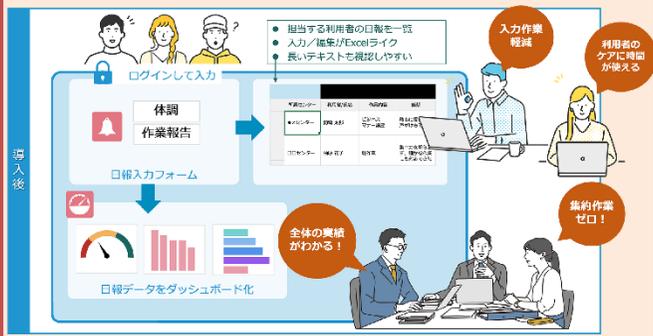


業務プロセス部門

<受賞者>
株式会社チャレンジドジャパン
所在地：宮城県仙台市

<受賞件名>
セルドシステムを用いた障害者就労移行支援事業の業務フロー統一と人材育成の効率化

<概要>
全国26カ所の障害者就労移行支援事業所毎に異なる業務フローを、ビジネスアプリケーションを組み合わせたシステムを構築し、全事業所の業務フローの統一化に成功し、年間約6450時間の作業工数削減を達成。今後はマーケティングにもシステムを活用し、採用企業への障害者雇用に対する理解促進、支援拡大等を目指す。



業務プロセス部門

<受賞者>
株式会社舞台ファーム
所在地：宮城県仙台市

<受賞件名>
日本最大級植物工場の需給管理システム開発

<概要>
新卒2年目の非エンジニア社員が、無料で利用できるwebアプリケーション型の表計算ソフト及びノーコードツールを活用し、日本最大級の植物工場「美里グリーンベース」における需給管理システムを開発費用をかけずに実装。播種計画の適正化による歩留改善と紙媒体の電子化により労働効率化・紙資源削減を達成。

